

原子力災害発生時における広域避難（一次避難）について

基本的な考え方

- ① 放射性物質の拡散方向に応じた避難に対応するため、西方面と南方面の避難先を設定
- ② 一次避難先は、市民ホール等公共的施設を優先して使用し、学校施設の使用は2分の1を上限
- ③ 要配慮者の避難対策はその状況に応じて避難先を調整



広域避難先

市町名	U P Z (30km) 圏内人口	避難先	
		西方面	南方面
舞鶴市	89,000人	89,000人 (関西広域連合と調整中)	京都市 65,000人 宇治市 14,000人 城陽市 6,000人 向日市 4,000人
綾部市	9,400人	福知山市 16,000人 綾部市 9,400人 宮津市 6,600人	亀岡市 6,400人 福知山市 3,000人
宮津市	20,300人	京丹後市 11,000人 宮津市 9,400人 伊根町 1,600人	長岡京市 5,100人 八幡市 5,100人 京田辺市 5,000人 木津川市 5,100人
伊根町	1,600人	与謝野町 4,300人 宮津市 4,300人	精華町 1,600人
福知山市	(300人)	(福知山市 300人)	(福知山市 300人)
南丹市	(3,700人)	(南丹市 3,700人)	(南丹市 3,700人)
京丹波町	(2,900人)	(京丹波町 2,900人)	(京丹波町 2,900人)
計	120,300人	120,300人	120,300人

- ※1 避難者のうち、約1割が親戚・知人等の家へ避難すると予想（東日本大震災における内閣府の避難行動等面接調査結果）されるが、福井県等他府県からの避難者を同数程度と見込む。
- ※2 福知山市、南丹市、京丹波町は当市町内に避難予定。